

令和3年8月3日（火）
農業・園芸総合研究所

令和2年度第3回試験研究機関評価委員会農業関係試験研究機関評価部会において事前評価を受けた令和3年度新規研究課題（県単独予算）について、諸々の理由により、計画の変更を余儀なくされたことから、その設計を一部変更する。

1 対象課題

持続可能な農業生産と高い生産性を両立する環境制御技術の開発（県単独予算）

2 担当部

野菜部生産工学チーム

3 変更内容

対象作物を、「イチゴ」から「パプリカ」に変更する。

4 変更理由

当初、当該試験研究課題においては、「イチゴ」の栽培支援プログラム^{注)}を活用して研究を行う予定であったが、本プログラムの開発が遅れたことから、既に実証段階にある「パプリカ」の栽培支援プログラムを活用することになったため、対象を変更するもの。

注) 宮城県も参画するイノベーション創出強化研究推進事業（課題名「センシングおよびシミュレーション技術を活用した栽培支援ネットワークサービスの社会実装（受託：令和2年度～4年度）」）で開発予定の栽培支援システム。

トマト、イチゴ、パプリカの葉面積および日射量、温度、CO2濃度等の施設内環境情報からその後の収量を予測するシステムで、トマトは熊本県、イチゴは栃木県、パプリカを宮城県が担当。